

『ひがしくさんぽ』

「おやま界限 その2」

7月号で紹介した里山地区道向かいの東側（県民運動公園敷地内）には、県内でもっとも古い石器が出土した石の本遺跡群があります。ここには案内板が設置してあり、その説明文によると、はるか3万年を超える熊本県内で最も古い石器が出土し、人々が最初にこの地に住み始めたと言われる暮らしの「始まり」の足跡が残されているそうです。ふだん何気なく通りすぎる場所にも、このような、文化的な価値のある貴重な地域遺産があることに驚き、地元住民の方々がこの地域に対する「誇り」を持たれていることを、太古のロマンに想いを馳せながら、じっと見入っていました。



熊本の空の玄関口である空港の隣接地域としても、アクセスがさらに整備され、県内外からももっとたくさんの人々にぎわい、すばらしい自然と文化に満ちあふれるこの地域が、多くの方々の目に触れ、より魅力のある拠点地区になってほしいという地域住民の熱い願いを、託麻の山々が、きっと見守ってくれていることを感じ取ることもできました。…さらにこのまま南方面へさろきます。

運動公園から国体道路を南に横切ると、里山地区と同じく全国都市緑化フェアパートナー会場としての協賛緑地帯があります。住宅地の一角にまっすぐに伸びた緑地帯と咲き誇る花々、横断幕に目を引かれました。



そして（小山地区限定ではありませんが・・・）さらに南へ、第一空港線を越えて進むと、深緑の戸島山が出迎えてくれました。ここにも市指定文化財の六地藏や奥の院大師堂十三仏像堂などの史跡が多く点在し、託麻新四国八十八か所巡りの活動が、市内で熊本市郷土文化財として唯一認定されていることの重みを実感しました。今回のさんぽの最後に、南側から託麻三山を望む風景です。（手前から戸島山・小
山山・神園山）

★「おやま界限のさんぽ」を終えて★

託麻の地（託麻東・西・南・北・西原・長嶺）の各校区にはまだまだたくさんの魅力あふれる自然や地域の人々が築き上げたすばらしい文化があります。管内人口8万2千人を誇るこの地域を「さんぽ」すれば、いろいろな人との多くの素敵な出会いがあるかも！？ しれませんよ。

みなさんもぜひこの機会にたくま地域をおもさん「さろいて」くださいね〜♪